

**新たな課題への対応**  
 ○新たな教科書への対応  
 ○Society5.0時代  
 ○SDGsとの関連  
 ○1人1台の端末を活用

**本校の教育目標**  
 ○よく考える子  
 ○思いやりのある子  
 ○健康な子  
 ◎すすんで働く子

**期待される子供像**  
 未知の課題を思索し、協働して新たな価値観や行動を生み出し、豊かで活力ある未来を創造する子

**特別活動**  
 ・他者の感情や経験などを想像する能力（共感力）を養う。  
 ・QUを活用し、自己有用感、人と関わる力を育てる活動充実。  
 ・美しい言語環境の推進。

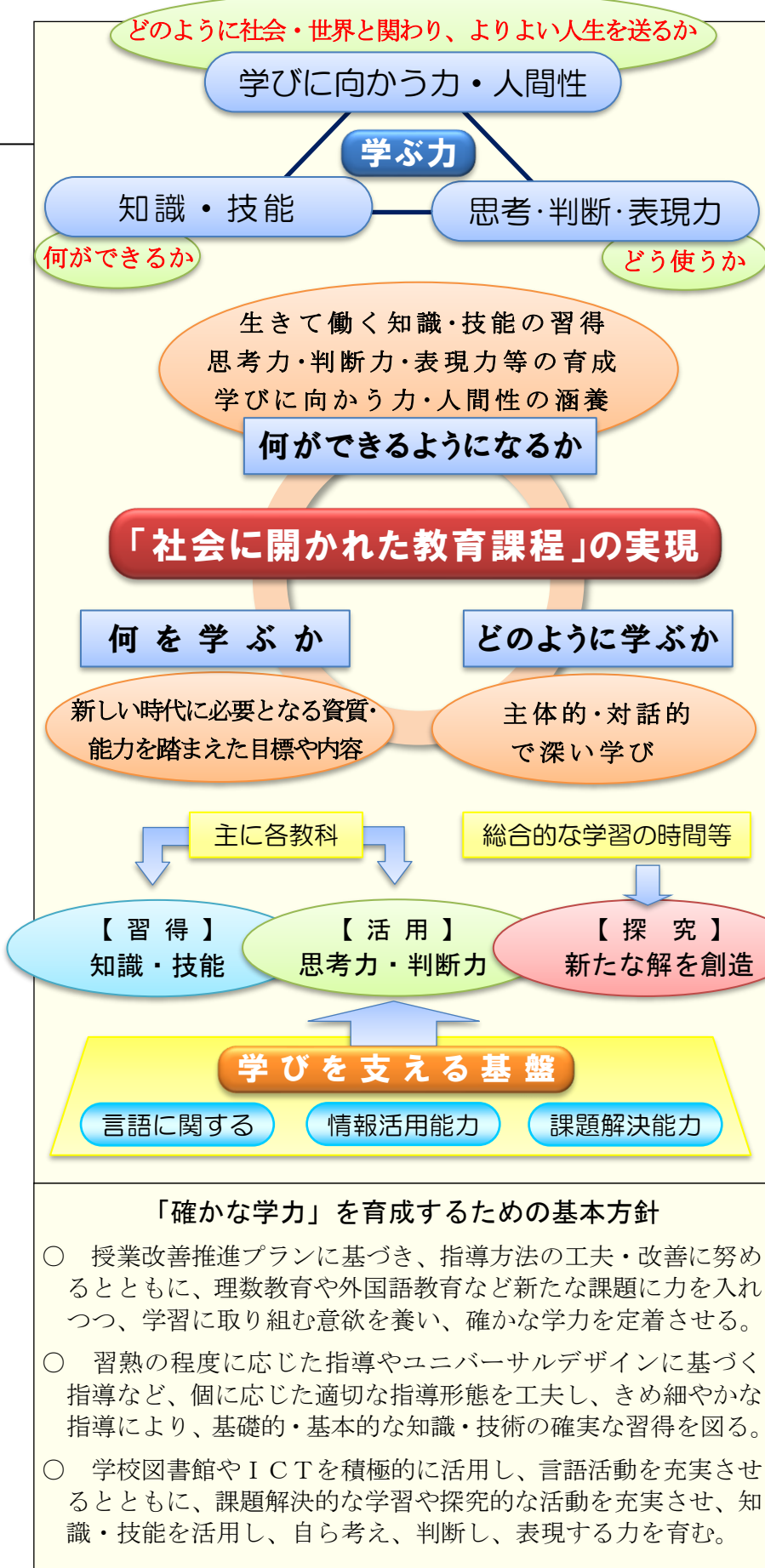
**生活指導**  
 ・あいさつや靴の踵を揃えるなど、凡事徹底を図る。  
 ・新しい生活様式など、集団における基本的習慣を育成する。  
 ・SOSカードを活用するなど、相談しやすい雰囲気醸成する。

**キャリア教育**  
 ・キャリアアルバムを活用し、自分の良さに気付き、日々の生活の中で生かす態度を育てる。  
 ・夢や目標をもち自らの生き方を考えようとする態度を育てる。

**食育**  
 ・食事の重要性や喜び、楽しさを理解し、健康に過ごそうとする態度を育む。  
 ・正しい知識・情報を基に、自分の健康を自ら管理していく能力を身に付ける。

**特別支援教育**  
 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を活用するなど、組織的に効果的に特別支援教育を推進する。  
 ・通常学級と特別支援学級との交流をさらに充実させる。

**特色ある教育**  
 ・学校図書館を活用し、読書とともに、教科指導の充実を図る。  
 ・タブレット等のICTを活用し分かりやすい授業を目指す。  
 ・コグトレ・短作文・朝読書、ふじみ寺子屋などを充実推進。



**各教科等の指導の重点**

**国語**  
 話すことを中心とした活動を通して、自分の思いや考えを豊かに表現する力や態度を育てる。

**社会**  
 地域の人材の活用、問題解決型の授業を通して、社会的なものの見方や考え方を育てるとともに会や国家の一員としての自覚や資質を養う。

**算数**  
 算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的な知識と技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち、筋道をたてて考える能力を育てる。

**理科**  
 自然界の事物・現象について見通しをもって観察・実験などを行い、問題解決能力の育成と実感を持った理解を図り、科学的な見方や考え方を育てる。

**生活**  
 身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活できるようにする。

**音楽**  
 表現と鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てると共に、音楽活動の基礎的な能力を培う。

**図工**  
 造形的な活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わい、基礎的な能力と豊かな情操を育てる。

**家庭**  
 家族の一員として、生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。

**体育**  
 自ら運動をする意欲をもち、積極的に運動に親しむ資質や能力を育成するとともに基礎的な体力を高める。

**総合的な学習の時間**  
 自ら課題をもち、自ら考え解決していく力や積極的に活動していこうとする態度を育てる。

**外国語活動**  
 英語を「話す・聞く」に「読む・書く」を加え、様々な表現を用い、互いに自分の思いを伝え合う力を育てる。

**校内研究の推進による授業改善・人材育成**

- 実態に応じた課題を研究主題として共有し、全教員が計画的・組織的に取り組み、協働意識を高める、学校の課題の解決や教員の資質能力の向上を目指す。
- 日常の教育実践に即した具体的な研究課題について、その背景要因を分析し、解決を試みることにより、その成果を直接子供の指導に反映していく。
- 校長による年6回の授業観察・指導、全教員の授業公開、小教研や教育研究員への参加、若手教員研修やOJTの充実等、教員の授業力を向上させる。

**授業改善に向けた具体的な方策**

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力分析に基づく授業改善推進プランを作成し、授業スタイルやノート指導の統一、板書や発問の工夫等、昭島市教育委員会のユニバーサルデザインを効果的に活用した指導方法を工夫する。</li> <li>・各教科の特質に応じた視点や思考等の「見方・考え方」を働かせながら、「探求ノート」を活用した課題解決・探究学習等、自ら考え判断し表現する学習を重視し、主体的対話的で深い学びを充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モジュール授業等の柔軟な教育課程、各教科の指導・評価計画の改善、週毎の指導計画の工夫等、各教科の本質に迫る一単位授業のねらいと学習活動を明確にして「指導と評価の一体化」を図る。</li> <li>・朝のコグトレ・短作文・朝読書、放課後のふじみ寺子屋、土曜補習授業を実施し、認知機能とともに、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図り、富士見丘スタンダードを共通実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題 効果的な組織体制の構築による「令和の日本型学校教育」の実現</li> <li>・研究内容 令和7年度より、学年担任制と教科担任制を導入するとともに、交流及び共同学習を一層推進し、通常の学級、特別支援学級（情緒固定）、通級教室（難聴言語）全校が一体となった指導体制を構築し、「垣根のない学校」の実現を目指している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週毎の指導計画の作成に際しては指導内容の精選を図り、指導の後の評価を適切に行って、形成的な評価を行う。</li> <li>・指導と評価の一体化を目指し各教科・領域の指導計画、評価計画の定着を図る。</li> <li>・一人一人のよさや努力を見取るため、評価方法を工夫する。</li> <li>・国や都の学力調査、本校独自の読解力調査、東京ベシックドリル診断シートなど、多面的な調査を活用し、既習学習の定着を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページや学級便り等で行事や学習予定を周知し、教育活動に対する理解を深め協力体制を築く。</li> <li>・保護者や地域の教育力を活用する中で開かれた学校づくりを目指す。</li> <li>・ゲストティーチャーや地域の学習材、施設等を積極的に活用した学習計画を推進する。</li> <li>・児童による学校生活アンケート、保護者による学校評価を行い、多面的な視点で教育活動の評価を行い、改善を図る。</li> </ul>